

P3-09

名古屋市のエビデンスに基づく がん対策への試み

石川 博己¹⁾, 小嶋 雅代¹⁾, 前野 健¹⁾, 松尾 恵太郎²⁾, 伊藤 秀美²⁾

1) 名古屋市健康福祉局, 2) 愛知県がんセンター



背景

- 名古屋市において悪性新生物は死因の第1位であり、年齢調整死亡率は全国と比較して若干高い。
- 様々ながん対策を行ってきたが、これまで特に効果検証はされていない。
- 平成22年より、自己負担金500円で各種がん検診が受けられる「ワンコイン検診」が開始され、10年余りが経過した。

平成25年 主要死因別標準化死亡率 (SMR)

	男性				女性			
	悪性新生物	胃	大腸	肺	悪性新生物	胃	大腸	肺
名古屋市	104.0	112.0	114.0	110.3	106.8	101.1	113.6	103.6
横浜市	95.0	92.8	105.4	87.7	102.2	90.0	107.5	106.5
京都市	105.1	98.3	107.8	109.9	108.1	105.4	120.4	124.3
大阪市	122.1	119.5	121.4	128.3	114.5	117.6	108.3	140.5
神戸市	105.0	112.0	107.5	103.9	105.2	103.5	119.3	113.3

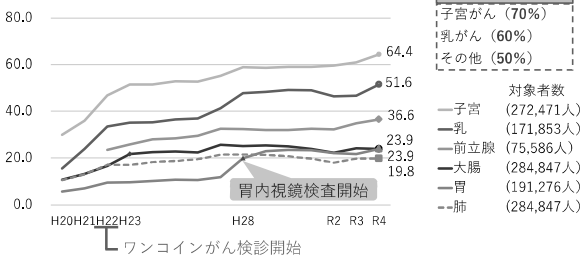
目的と方法

- 名古屋市におけるワンコイン検診の実施によるがん対策上の効果を検証する。
- 胃、大腸、肺、子宮、乳がんについて、ワンコイン検診を開始する前の平成20年より現在までのがん検診受診率、がん発見率、がん死亡率の推移を、旧5大市(名古屋市、横浜市、京都市、大阪市、神戸市)間で比較する。

結果

平成20年と比較し、令和3年における本市のがん検診受診者は2.38倍、がん発見者数は3.96倍に増加し、他都市よりも大幅な増加が見られた。しかしながら、がん死亡率についてはほぼ横ばいであり、他都市の推移と差はなかった。

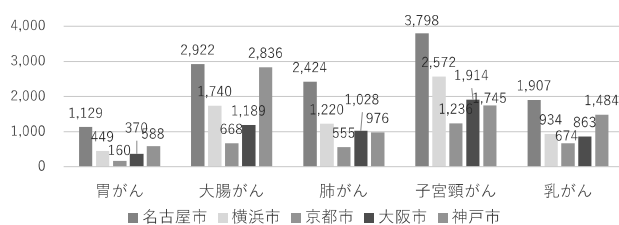
○がん検診受診率の推移 (%)



○5種類のがん検診による受診者数およびがん発見者数

区分	受診者数			がん発見者数				
	平成20年度	令和3年度	増加人数	令和3年度/平成20年度	平成20年度	令和3年度	増加人数	令和3年度/平成20年度
名古屋市	200,732	477,740	277,008	238.0%	267	1,057	790	395.9%
横浜市	263,706	443,529	179,823	168.2%	747	964	217	129.0%
京都市	89,811	70,605	△ 19,206	78.6%	145	115	△ 30	79.3%
大阪市	184,258	223,000	38,742	121.0%	344	479	135	139.2%
神戸市	103,356	192,284	88,928	186.0%	166	419	253	252.4%

○令和4年度がん検診受診者数 (人口10万人対)



○5種類のがんによる死亡者数 (人口10万人対)

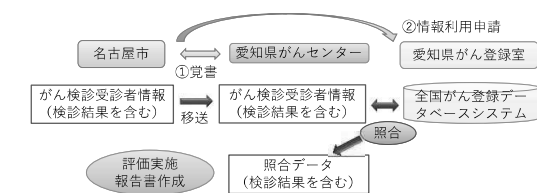
区分	平成20年	令和4年	増加人数	令和4年/平成20年
名古屋市	138	149	11	108.0%
横浜市	119	131	12	110.1%
京都市	147	154	7	104.8%
大阪市	154	158	4	102.6%
神戸市	142	150	8	105.6%
全国	141	159	18	112.8%

考察

自己負担費用の軽減は、受診率の向上とがん発見数の増加に一定の効果をもたらした可能性があるが、死亡率の減少には直結していないことが確認された。効果的ながん対策を進めるには、検診受診率だけでなく、質の向上、治療体制の強化、市民への啓発など、多方面からのアプローチが必要である。名古屋市では、愛知県がんセンターと共同研究の協定書を交わし、検診情報とがん登録情報を統合し、感度・特異度を含むがん検診の精度管理を行うほか、根拠に基づいたがん予防対策を実践していきたいと考えている。

今後の展望

名古屋市と愛知県がんセンターの共同研究
「地域がん登録情報を使用した名古屋市のがんの実態把握とがん対策の効果検証」



- 2023年11月1日 覚書の締結: 名古屋市が愛知県がんセンターに「愛知県がん登録情報」および「名古屋市がん検診受診者情報」を提供する際の取り扱いについて規定
名古屋市健康福祉局長⇄愛知県がんセンター総長
- 2023年10月31日 愛知県がん登録情報利用等審議会に情報利用の申請: 「都道府県がん登録情報等の提供について」 名古屋市健康福祉局長→愛知県知事

<現在の進捗状況>

- 名古屋市死亡、罹患に関する「がん統計の報告書」は、既に愛知県がんセンターの重点プロジェクトの一環として2018年分が完成。
- 名古屋市のがん検診の精度を評価: 感度・特異度の算出
- 名古屋市のがん検診の有効性を検証: がんの発見の経緯(検診か、それ以外か)による「がんの進行度」、「治療内容」、「生存率」などを比較。
- 2024年度から、検証結果を市民を対象とした広報に掲載
- 2026年度中の学会発表、論文発表を目指す。

自治体が「がん登録情報」を活用する上での障壁

- 情報管理、データ分析に必要なソフト、ハード両面からの体制の不備
- 職員の意識、必要性の認識
- 個人情報取り扱いに対する不安
- 他の自治体での実績